

①

デジタル庁「教育関連データのデータ連携の実現に向けた実証調査研究（教育における広域なデジタルコンテンツの利活用環境整備と連携）」  
（令和3年度補正予算・令和4年度実施・2億円・34事業者）

→校務支援システム、学習支援システム（学習eポータル）、学習アプリ間の主体情報等の連携をテスト環境下等で実証

②

デジタル庁「こどもに関する各種データの連携による支援実証事業」（令和3年度補正予算・令和4年度実施・7億円・7地域）

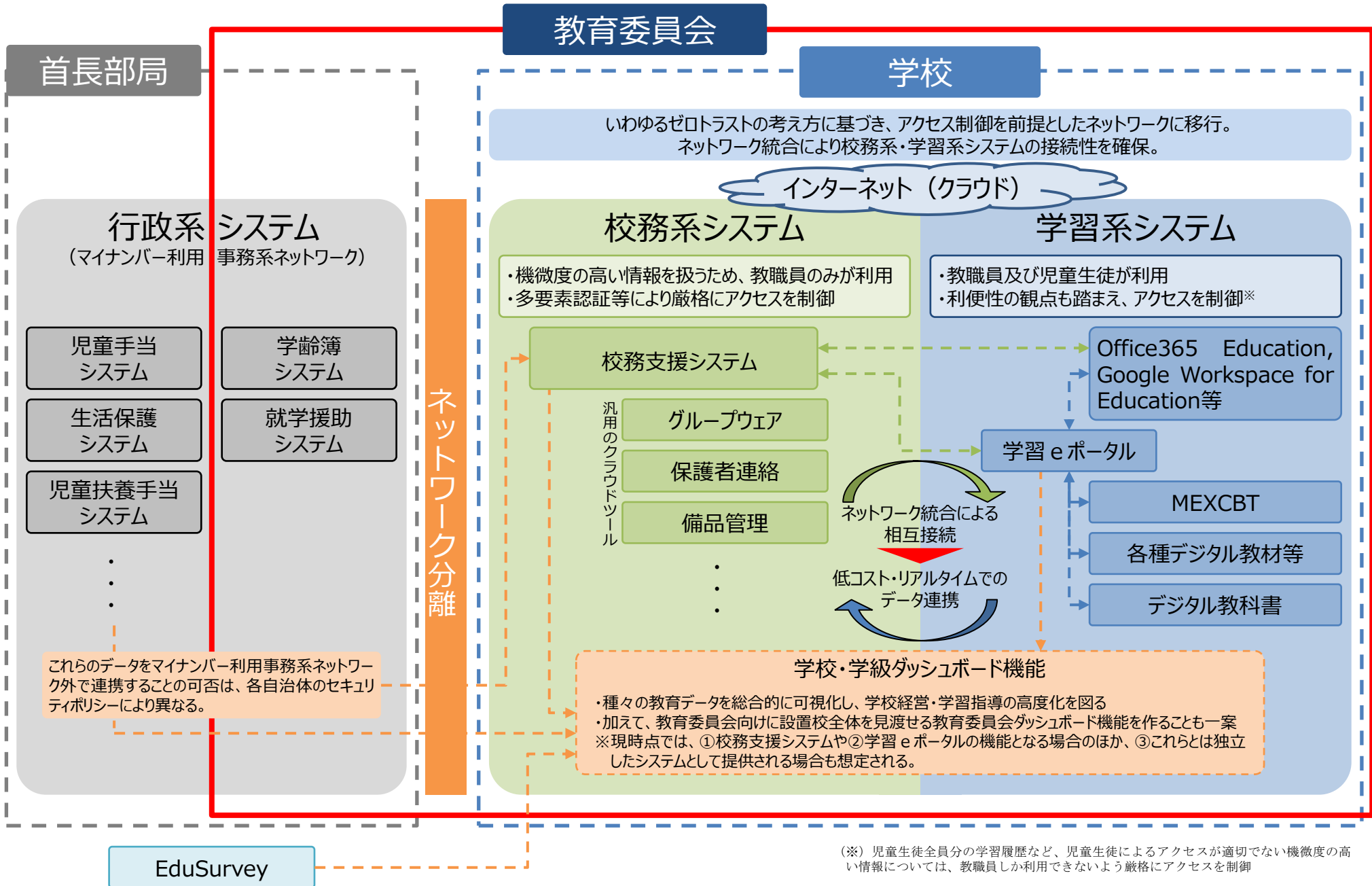
→校務系・学習系ネットワークの分離を前提とした上で、校務系・学習系システムの一部データと、行政系システムのデータ連携を実証

…デジタル庁の実証事業（上記①・②）の成果も活用して実施

③

「次世代の校務デジタル化推進実証事業」（令和4年度第2次補正予算・11億円）が想定する対象

→校務系・学習系システムのネットワーク分離を解消した上で、校務系システムに蓄積された多様なデータ（名簿情報のみならず、成績情報や体力測定の結果や保健室の利用状況などを想定）と、行政系・学習系システムのデータとの円滑・低コストな連携を可能とする仕組みを実証



## 従前の校務情報化

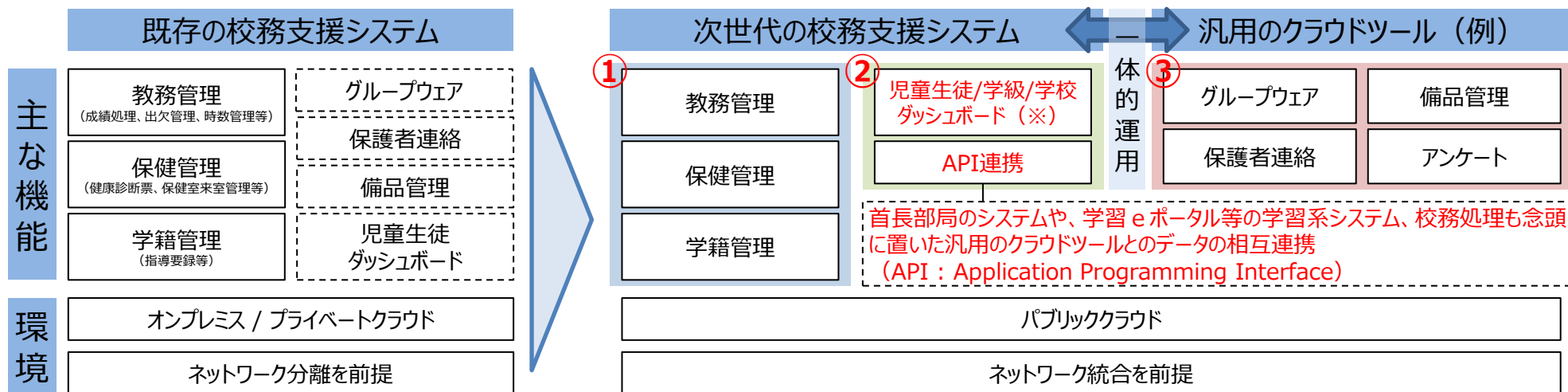
- 紙ベースの業務の効率化（法定帳票の作成等）
- 一つの校務支援システムに様々な機能を統合

## 校務DXが目指すべき方向性

- 紙ベースの業務の抜本的な見直し※や業務用端末の一台化、業務のロケーションフリー化等による更なる業務効率化
- 様々なソフトウェアとの最適な役割分担・一体的運用
- データ活用による学習指導・学校経営・教育施策の高度化  
※法定帳票の原本電子化や、各種業務フローの電子化等

## その中で、次世代の校務支援システムが果たすべき役割

- ネットワーク統合を前提としたクラウド化による、データ連携・データ分析機能の実装
    - ・ 児童生徒の出席状況や保健室の利用状況など、日々の生活情報を収集する基盤としての機能
    - ・ 首長部局が運用する各種システムとデータ連携を行う上での窓口としての機能（福祉の受給状況等機微度の高い情報とデータ連携を行うには、成績情報等の機微度の高い情報を扱う校務支援システムに窓口機能を持たせることが考えられる。）
- ※汎用のクラウドツールで対応できない、真に必要な機能に限定



⋯ : 別システムでの整備も考えられる機能